

「ダブル発電住宅」を建設 太陽光とエネファームで省エネ ばうはうす



清水社長

注文住宅のばうはうす
(高崎市中央町643-1)
6、清水光成社長 ☎027-3772-1930
は、このほど太陽光発電システムと家庭用燃料電池コージェネレーションシステム「エネファーム」を搭載した「W発電住宅」を前橋市内に建築した。居住時のCO2排出量を抑えるとともに、発電で余った電力を電力会社に売電、光熱費を低減することができる。また、住宅の構造材90%以上に県産材を使用。清水社長は「県産材を使ったW発電住宅を先進性と環境性、光熱費削減をアピールできる住宅として、エコ意識の高いお客さまに対して提案していきたい」と話している。

建設地は、JR前橋大島駅から徒歩10分ほどの閑静な住宅街で、建築主は



外壁は南九州シラス台産の火山灰を用いた「白州そとん壁」

「家族の健康と自然素材を大切にしたい環境配慮型の住宅」を望む前橋市在住の5人家族。太陽光発電システムは三洋製（発電出力4.0kW強）、エネファームは東芝製を採用。住宅の柱や梁（はり）、床などには県西部の「かぶらスキ」を多く用いた。同社によると、今回の住宅の場合、両システムに加えて県産材の採用により、国・県・前橋市などから支給される補助金の総額は約260万円になるといふ。

住宅の外観は、屋根形状を南下がりの片流れにしたボックス型のモダンなデザイン。外壁は南九州シラス台産の火山灰を用いた「白州そとん壁」、玄関とバルコニーの壁面には防腐と不燃処理を施したウエスタンレッドシダーを板張りして、金属系の屋根や太陽光パネルの固い印象を自然素材の風合いでやわらげた。住宅の規模は、木造2階建て延べ床面積約130平方メートル。壁には羊毛断熱材（ウールプレス）を使い、下地の壁紙と塗装は通気性に優れたドイツ製の自然素材を使用。開口部は気密性の高い樹脂サッシ、ドアなどの建具はすべて同社のオリジナルで、収納内部は防虫効果の高いキリで仕上げた。大きな吹き抜きのある16畳のリビングダイニングや、家事効率を考慮して一直線に配置した水回り、奥行き90センチのミニスカウターがあるアトリエスペースが特徴。キッチンに大きなカウンターを設けて、家族全員が料理に参加したり、アトリエから庭で遊ぶ子供の様子が見えるよう工夫した。2階の子供部屋は大きなワンルームで、子供の成長に合わせて3つに仕切ることができる。同社ではこのほか、現在建設中の長期優良住宅（前橋市箱田町）で3月上旬にオープンハウスを開く。問い合わせは同社へ（両現場の施工記録は同社ホームページ <http://www.bauhaus-lab.com/> で閲覧可）。

住宅の場合、両システムに加えて県産材の採用により、国・県・前橋市などから支給される補助金の総額は約260万円になるといふ。



自然素材の魅力あふれるリビング